

公開シンポジウム

復興の「いま」と「これから」

—— 社会的モニタリングと震災アーカイブの役割 ——

主催：日本学術会議社会学委員会東日本大震災後の社会的モニタリングと復興の課題検討分科会

共催：東北大学大学院経済学研究科震災復興研究センター

科研費基盤研究 B「東日本大震災からの経済復興・産業再生における政策ツールの有効性評価」

日時：2019年8月10日（土）

11：00～16：30

（入場無料・事前登録不要）

場所：東北大学 片平さくらホール（宮城県仙台市）

〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平 2-1-1・片平キャンパス

最寄駅：青葉通一番町駅（仙台市地下鉄南北線）南1口より徒歩約10分

五橋駅（仙台市地下鉄東西線）北2・北4口より徒歩約10分

仙台駅（JR）西口より徒歩約15分

<http://www.tohoku.ac.jp/japanese/profile/campus/01/katahira/>

問い合わせ先：町村敬志（一橋大学）t.machimura@r.hit-u.ac.jp



開催趣旨：復興・創生期間の終了を間近に控えて、復興の「いま」と「これから」を見据えた社会的モニタリングをどうおこなうかが大きく問われている。本シンポジウムでは、そうした社会的モニタリングのあり方を、震災アーカイブの「活用」と「利用」をめぐるさまざまな問題状況やそれらに関連する課題群に合せながら多面的に検討する。

写真 2011年11月 大船渡市街 撮影・提供 山本唯人

次第：（総合司会）岩井 紀子（日本学術会議連携会員，大阪商業大学総合経営学部教授）

11:00 開会挨拶・趣旨説明 吉原 直樹 本分科会委員長（日本学術会議連携会員，横浜国立大学都市イノベーション研究院教授，東北大学名誉教授）

第一部（司会 青柳 みどり，日本学術会議特任連携会員，国立環境研究所）

11:15 1. 解題——復興を考え続けるための基盤をいかにつくるか 町村 敬志（日本学術会議第一部会員，一橋大学社会学研究科教授）

11:30 2. 復興政策における成果と課題 岩淵 明（日本学術会議連携会員，岩手大学学長）

11:45 3. 復興研究と政策評価・モニタリング：「震災復興研究センター」から「みやぎボイス」まで
増田 聡（日本学術会議連携会員，東北大学経済学研究科教授）

12:00 4. 被災地福島の人々の心身の健康状況とその対応について 安村 誠司（日本学術会議第二部会員，福島県立医科大学医学部教授）

12:15 5. 被災当事者の声を聞くという課題が先送りされ続けている要因 島菌 進（日本学術会議連携会員，上智大学実践宗教学研究科教授）

12:30 6. 福島第一原発事故の被災地問題の推移とその影響 山下 祐介（日本学術会議連携会員，首都大学東京人文科学研究科教授）

13:00 - 14:00 休憩

第二部（司会 町村 敬志）

14:00 討論 玉野 和志（日本学術会議連携会員，首都大学東京人文科学研究科教授）

14:10 討論 山川 充夫（日本学術会議連携会員，福島大学名誉教授）

14:20 パネルディスカッション（登壇者全員）

16:15 まとめ 吉原 直樹

閉会挨拶 岩淵 明

閉会のことば 岩井 紀子

16:30 閉会